

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(積志中) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

- ・地域と学校、地域と中学生のつながりを深める。
法被寄贈及び夏季休業中の学習支援を継続し、地域防災の担い手としての中学生の関わり方と部活動の地域クラブ移行を新たに検討し、コミュニティ・スクールの果たすべき役割が継続的に実施できる体制を整える。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・3つの充実(授業・集団活動・体験活動)に重点を置き、積極的な意見交換ができた。
- ・今年度の「SEKISHI PRIDE ～磨く～」など、分かりやすいスローガンが継続されており、協議会の中でも柱となり、熟議することができた。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・今年度も体育大会で使用する法被の回収、夏季休業中に行われた学習支援など、3つの充実につながる活動が継続してできた。
- ・部活動の地域移行については、「休日の部活動指導に参加可能な人材の調査」と「指導者登録説明会」を実施することができ、令和8年の地域移行に向けて新たな一歩が踏み出せたのではないかと考える。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・さくら連絡網を活用し、協議会の活動について周知はできている。また、学校ホームページで協議会の情報を公開したり、回覧板などで法被の寄贈や休日の部活動指導に参加可能な人材の調査をしたりしたことにより、地域住民にも協議会の存在や活動内容が認知されてきているのではないかと考える。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・これまで話し合いを進めていくことで、協議会としてできることはないかとあらゆる活動を考えてこれまで取り組んできた。それらは成果もある反面、新たな課題も見えてくることもあり、来年度は活動の精選と効率化を図る必要がある。
- ・部活動の地域移行に向けて今後も新しい人材を見つけ、受け入れる体制と、部活動以外にも、例えば、家庭科の調理実習や国語科の書写の授業で指導・補助をしてくれる方、福祉や職業について講義してくれる方など、日々の授業で生徒と関われる人材の確保も目指したい。
- ・地域と学校のつながりのきっかけのひとつとして、地域防災への関わりも検討したい。